

# 米軍統治期沖縄をめぐる 人種化、(脱)主体化、社会運動 —横断的空間における権力と抵抗

大野光明 (四国学院大学)

沖縄闘争の越境的展開 — 1960年代後半、大阪と沖縄をつなぐ複数の回路をめぐる

土井智義 (沖縄大学)

米軍統治期の「琉球列島」における「国民」/「外国人」編制をめぐる一側面 — 第1次出入管理令 (米国民政府布令第93号)の成立まで

コメンテーター 戸邊秀明 (東京経済大学)

日時 2013年2月23日(土) 14:00~18:00

場所 一橋大学東キャンパス

国際研究館 5F 共同研究室3

問合せ 井上間従文 (一橋大学) [m.inoue@r.hit-u.ac.jp](mailto:m.inoue@r.hit-u.ac.jp)

科研費基盤(B)「ポスト太平洋戦争の「英米文学」研究

— トランスパシフィックな文学的想像力と政治学」

## 講師 プロフィール

### 大野光明

四国学院大学非常勤講師、日本学術振興会特別研究員 (PD)

共著：『差異の繋争点』（ハーベスト社、2012年）、『燃ゆる海峡 — NDU と布川徹郎の映画／運動に向けて』（インパクト出版会、近刊）

論文：「越境する運動と変容する主体 — ジャテックの脱走兵支援運動・米軍解体運動を中心に」（『Core Ethics』4号、2008年）、「復帰運動の破綻と文化的実践による『沖縄闘争』の持続 — 竹中労の沖縄論を事例として」（『社会文化研究』15号、2012年）など。

### 土井智義

沖縄大学非常勤講師、沖縄県文化振興会公文書嘱託員

共著：『現代沖縄の歴史経験』（青弓社、2010年）、『イモとハダシ — 占領と現在（沖縄・問いを立てる5）』（社会評論社、2009年）、『音の力 — 沖縄アジア臨界編』（インパクト出版会、2006年）

論文：「米軍占領期における『国民』／『外国人』という主体編成と植民地統治 — 大東諸島の系譜から」（『沖縄文化研究』38号、2012年）など。

### コメンテーター

### 戸邊秀明

東京経済大学経済学部 准教授

論文：「『残留者』が直面した境界の意味 — 日本占領期在九州沖縄人の声を紡ぐ」（『近代日本の「他者」と向き合う』解放出版社、2010年）、「沖縄『戦後』史における脱植民地化の課題 — 復帰運動が問う〈主権〉」（『歴史学研究』885号、2011年10月増刊）、「越境者たちの復帰運動 — 1950年代前半における在日本沖縄人学生の組織と意識」（『沖縄文化研究』38号、2012年）など。